

葡萄牙(卷二二・一九・七六頁)

此國は第十四五世紀に於ては英國と同盟し、通商航海盛にして、歐洲の最強國と仰がれたり。即ちバスコダガマは一四九七年始めて喜望峯を廻り、マセラジ亦一五二〇年世界を週航せり。これより東洋貿易盛にして、首府リスボンは世界商業の中心たりき。此頃より屢我が九州に來り、鐵砲煙草等を傳ふ。享祿三年(二一九〇)には商船豊後に來り大友と貿易す。これを我が國歐洲と交通せし始めとなす。且つ羅馬舊教(セスイト派)を傳來せり。斯くの如く一時全盛を極めて、第十六世紀に至り人民の大移住あり。舊教の壓制、猶太人の追放等相次で興り、國勢遂に奮はず、一五八〇年西班牙に併呑せられしが、一六四〇年僅に獨立を恢復したれど、漸次に海外の領地を失ひ、現今は亞弗利加亞細亞等に二三の領地を存するのみ。

御土御門天皇(卷二二・一九・八〇頁)

百三代御土御門天皇は御諱を成仁と申し、後花園天皇の皇長子にして、嘉吉二年(二一〇二)五月二十五日御降誕。長祿元年(二一一七)十二月親王となり、寛正五年(二一二四)七月禪を受く。明應九年(二一五〇)九月二十八日崩御、御壽五十九。

北條早雲(卷二二・一九・八〇頁)

舊姓伊勢氏新九郎と稱す。足利氏の季世群雄所在に割據して擾亂息まず、長氏大志あり、遂に機に乗じて、伊豆を取り韭山城に居る。子氏綱の爲に

葦山の舊族北條氏を娶り、氏を北條と改め、雞髮して早雲と號す。明應三年(一一五四)小田原を取り、永正十五年(一一七八)悉く相模を略す。同十六年(一一七九)八月十五日、年八十八を以て葦山城中に卒す。

泉岳寺(卷一二・二二一・八六頁)

東京市芝區高輪車町にあり。臨濟宗にして門庵和尚の開基赤穂城主淺野長矩及び四十七義士の墓あり。

大石良雄(卷一二・二二一・八六頁)

曾祖良勝以來淺野家に仕へ、祿千五百石を食む。元祿十四年(一一三六一)三

月藩主長矩、殿中に於て吉良義央を傷けたる故を以て、幕府長矩に死を賜ひ、弟長廣に屏居を命じ、又赤穂城を收めしむ。良雄遂に京都に往て山科に居り、密に同志と復讐を謀る。衆名を變じ、迹を韜み、東西往來して互に耳目をなす。十二月吉良義央致仕し、子義周祿を襲ふ。同盟の士良雄に迫りて事を擧げんとす。良雄之を諭して機を待たしめ、自ら亦遊蕩を事とす。翌年七月幕府長廣を安藝に錮す。良雄意を復讐に決し、十月同盟を率ゐて江戸に赴く、其數實に四十六人なり、日夜義央の邸を窺ふ。十二月十四日義央客を本所の第に招き宴を張る。良雄乃ち此夜を以て事を發せんとし、堀部武庸の舎に會し、衆皆常服を以て鎧甲を蔽ひ、火を救ふもの、狀をなし、義央の第に至り吶喊して進む。良雄は前門より、子良金は後門より入る。家衆多く竄避す。遂に義央を刎ね、衆を率ゐて泉岳寺に至り、首を長矩の墓前に供して祭る。幕府遂に良雄等を細川毛利等諸侯の邸に分拘し、明年二月四日死を賜ふ。時に良雄年四十五なり。正徳三年(一一三七三)に至り、淺野吉重、良雄の末子良恭を召して祿千五百石を授く。

明治元年(二五二八)十一月五日、明治天皇泉岳寺に行幸あらせられ、次の勅語を賜はる。

汝良雄等固ク主從ノ義ヲ執リ仇ヲ復シテ法ニ死ス百世ノ下人ヲシテ感奮興起セシム。朕深ク嘉賞ス今東京ニ幸ス因テ使トシテ權辨事藤原獻ヲ遣シ汝等ノ墓ヲ弔ヒ且金幣ヲ賜フ(原漢文)

喜 劍 (卷一・二二一・八六頁)

喜劍者、不詳何許人。或云薩藩士。蓋奇節士也。元祿中、赤穂國除、大石良雄在京師。時物論囂囂言其有復讎之志。良雄患之、故假歌舞遊行以滅人口。一日遊島原酒樓。會喜劍亦來遊焉。喜劍素與良雄不相識、然希物論不虛。及聞其遊蕩不已、心甚不懌。乃招良雄同飲于一樓、以微言諷之。良雄不應。因更反覆直言。良雄猶不應、笑言自若無承服也。喜劍乃怒目大罵曰、汝真人

面而獸心也。汝主死汝國亡、汝爲大臣而不知報仇、非獸而何。余將獸待汝。於是展左脚盛魚膾數鬻于脚指頭、使良雄食之。良雄夷然俯首喫之、畢、舐指頭餘瀝。時良雄啞啞之笑聲、與喜劍叱叱之罵聲、喧然聞乎樓外矣。

既而喜劍于役江戸、適聞赤穂人報讎事、問之、則同謀四十六人、良雄其首也。喜劍愕然曰、吁、余死矣。夫余目獸視良雄、乃我目之罪也。余舌獸罵良雄、乃我舌之罪也。余足獸食良雄、乃我足之罪也。余心獸待良雄、乃我心之罪也。一身皆罪、吁、余死矣。於是託疾歸國、公私了事、復來江戸、則良雄既與同謀之士皆賜死、葬之江戸泉岳寺中。乃詣其墓、拜曰、我當面謝萬罪于地下耳。乃拔刀屠腹而逝。有人、又葬之其墓側。

夫喜劍氏、初之、與良雄不相識、而希其有義舉、中之、直言忠告、至罵而辱之、終之、殺身明志、以謝其罪。雖非中行之士、其奇節可謂不恥古之俠者矣。

中西伯基、亦奇士也。恆喜談忠臣烈士事、嗜嗜不離口。嘗憶喜劍有此奇節、而世多不之知也、欲別建一石于泉岳寺、略記事蹟、以示後人。乃齎費金若干、來徵文于余。余時年方二十七、八、未嘗作金石文字、固辭不可。乃約自今學文十

年而後草之。時余貧甚、伯基乃留其金、使余自救。爾來荏苒過二十餘年。今則伯基年踰六秩、余亦五十餘、皆頽然老矣。余乃爲文、出金、致諸伯基、遂償兩債。嗟乎、喜劍之死固奇矣。伯基此舉亦奇矣。猶恨余文不奇耳。

この碑故ありて泉岳寺内に建つることを果さざりき。但墓石は四十七土の墓所入口の左に在り。

林鶴梁 (卷一二・二二・八八頁)

名は長孺通稱は伊太郎、鶴梁は號なり。武藏の人、祖伊兵衛、父左十郎三世相承て徳川氏武庫の吏となり、鶴梁年二十四始て悔勵自ら奮ひ、古文を長野豊山に學び、經義を松崎慊堂に受く。弘化二年(二五〇五)甲府の教官に擢られ、嘉永六年(二五一一)遠州中泉の代官に任ず。事を爲すに民財を費さざるを誓ひ、訟を聽くこと冤なきを期し、請謁を絶ち苞苴を禁ず。安政元年(二五

一四)地震海嘯あり、居民大に食に困むや、倉を開て賑濟して足らず。依て私金百三十圓を出し、麥桿を市ふて之を貯へ、名づけて惠濟倉といふ。任を羽州幸生に科す。幸生は銅坑幾んど三十所あり、先きに務を聞き吏を置きしが、銅久しく出でず。鶴梁任に赴き督視し、旬日にして銅三千斤を得たり。幕府儒を以て吏務に任ずるもの、岡本花亭、羽倉簡堂等の數名に過ぎず。鶴梁これと譽を齊しうす。墨艦の入津するや、首として鎖港を唱へ、藤森弘庵等と其議論を上下す。此等の事を以て、遂に當路者の擯斥する所となる。明治戊辰以後また仕へず、麻布の第に住み生徒を教授す。文化三年(二四六六)を以て生れ、明治十一年(二五三八)一月十六日歿す、年七十三。

孔子 (卷一二・二三・九三頁)

名は丘字は仲尼、魯の人、其先は宋人なり。父は叔梁紇、顔氏の女を娶り、其

に尼山に禱りて孔子を生む。魯の昭公の十三年、孔子季氏の吏となり、翌年司穡の吏となる。十七年周に適きて禮を老子に問ひ、歸りて後弟子益、加はる。二十五年齊に適きしが、齊の景公これを用ひんとして果さざりしかば、三十二年魯に還る。定公の十年大司寇となり、定公に勸めて三都を墮さしむ。孔子相の事を攝行して、魯大に治まる。十三年魯を去りて衛に往き、十四年陳に適かんとして、匡に到り衛に歸る。十五年宋に適き、弟子と禮を大樹の下に習ひ、鄭に適き、陳に適く。哀公の二年衛に適き、陳に適く。四年蔡に適く。六年魯に歸る。哀公政を問ひて用ふること能はず。乃ち書を序し、又古詩三千を刪定す。易を修め春秋を作る。十六年四月卒す。周の敬王の四十一年なり。弟子三千人、身六藝に通ずる者七十二人、子鯉(伯魚)早く死し、孫子思嗣ぐ。

子 思 (卷一・二・三・九六頁)

孔子の孫にして伯魚の子なり。名を伋といふ。嘗て衛に事へ後出で中庸を作る。年六十二にして卒せり。

孟 子 (卷一・二・三・九六頁)

名は軻字は子輿、また子車ともいふ。魯國の鄒の人、業を子思の門に學ぶ。年三十にして門人に教授し、四十八歳にして宋に往き、五十歳にして魏の惠王に事ふ。五十九歳にして滕に到り、文公に治國の要を告げ、六十七歳にして齊に到りて客卿となる。七十三歳にして齊を去り、七十六歳にして鄒に歸り、門人と共に詩經、書經の意を叙し、孔子の道を述ぶ。周の赧王の二十五年卒し、四基山に葬る。後世孔孟と並び稱せらる。其著に孟子あり、全篇七

篇より成る。周の徳衰へ、天下攻伐連衡を事とし、異端邪説の續出するを慨き、仁義養氣、王霸性善の諸説を主張して、大に先王の道を闡明せるなり。

帝國議會 (卷一二・二六・一〇六頁)

明治十四年(二五四一)十月十二日國會開設の勅諭ありて、二十三年(二五五〇)を期し、議員を召集し、國會を開かせたまふべき旨を諭され、二十二年(二五四九)二月十一日紀元節を期し、憲法發布の勅語と共に憲法を發布され、同時に勅令第十一號にて貴族院令公布され、翌二十三年二月廿七日貴族院議員選舉につき詔勅ありて、七月十日東京上野華族會館にて同選舉を舉行す。衆議院は同年七月一日、第一回通常總選舉を行ひ、次で二十三年(二五五〇)十月九日の勅令あり、十一月二十五日を以て東京に召集され、同月二十九日開院式を舉行されたり。

公侯伯子男爵 (卷一二・二六・一〇六頁)

明治十七年(二五四四)七月七日華族令を公布せられ、華族を公侯伯子男の五等に分つ。此名稱はもと、支那周の制、諸侯を五等に分ち、公侯伯子男と稱せしよりの名目なり。

安奉鐵道 (卷一二・二五・五八頁)

安奉鐵道は、幅二呎六吋の狹軌輕便鐵道にして、日露戰役中我が國に於て敷設し、明治三十八年(二五六五)十二月二日全通したるものなれども、同四十二年(二五七二)中廣軌改築に着手し、同四十四年(二五七二)十一月一日落成、開通式をいはれたり。

歴史的教材教授資料 終

大正元年九月二十日印刷
大正元年九月廿五日發行

歴史的教材教授資料
定價金壹圓貳拾錢



著者 秋鹿見二

發行者 東京市神田區小川町四十一番地 櫻村喜久太郎

印刷者 東京市京橋區弓町二十四番地 吉岡益藏

發行元

東京市神田區小川町四十一番地
(振替口座第壹貳參六番)

敬文館

電話本局千四百二十五番

● 弊店發行の書籍は供給上差支無之様常に製本準備致置候間萬一地方取次店に品切等の場合は直接弊店へ御注文下され候はゞ即時送本可致候

三協印刷株式會社發行

敬文館發行圖書

東京高等師範學校教授
兼同校附屬小學校主事

佐々木吉三郎先生著

教育的美學

菊版上製函入美本
定價(上卷)金壹圓貳拾錢
(中卷)金壹圓參拾錢
(下卷)金壹圓四拾錢
送料各金拾錢
全部愈完成

▲(上卷)は美學の原理を明快に叙述し、(中卷)は教育活動に含まれたる藝術的要素を詳説して、教育實際上の指針を示し、

▲(下卷)に於ては、筆を近世藝術思想の發展に起して、世界に於ける藝術教育の現今の立脚地を評論し、學校家庭社會に於ける、教育方面の改良運動を系統的に叙述し、次いで教育目的論を其美學哲理に遡り、明確に論定し、最後に教師の修養を論じて、美學上の要求を明示したり、凡そ美學と教育學と相接觸するものは錙銖と雖も漏さず、其の包括的にして、而も脈絡の貫通せる、讀者一々指呼して誤たざるを得ん、時將に綠蔭讀書の佳期、靜かに本書の語る處を聞かば、教育の原理と實際とに於て、啓發する處蓋し尠少なからざるべし。

敬文館發行圖書

文學博士遠藤隆吉先生 共著
東京府立第一高等女學校教頭 市川源三先生

男女青年之心理及教育

附、青年團體之指導

菊版總布製
美本全一冊
定價金壹圓
郵稅金拾錢

青年期は人生の危機なりとせば、青年の指導監督の講究なきは、やがて國家の危機にあらざるや、この時に當りて青年男女の心身特質を研究し、これに指導教育の方法を究明するは教育家の一大責務なり、著者其專攻せる社會學及び心理學に據りて、青年男女個人及團體の心理を説き、多年實地經驗せられたる所によりて、青年の教育青年團體の指導を説く、その説や穩健、その辭や懇切を極む、本書一度出ては斯界一道の光明に接するの感あるべし。

東京醫科大學助教授 醫學博士三宅鑛一先生講述

病的兒童心理講話

菊版總布製
美本全壹冊
定價金壹圓
郵稅金拾錢

子女教育は國民の後繼を養ふ道にして一刻も忽にすべからず、然るに世間往々にして愛兒の性格に病めるを知らずして徒に無益の訓戒に焦心して治療の道を怠り、只管其學業の振はざるを責むる父兄教育家あるは嘆すべきことならずや。然れども磨して光らざる玉なき如く、病的又は低能の兒と雖も教育治療の適法を俟つて亦國家柱石の才たらんも圖るべからず。三宅先生多年研究蘊蓄せられたる所を茲に傾倒す。而も平易通俗を旨として病的兒童の性質處置教育法の大要を講述せるものなり、切に教育家諸君の一讀を希ふ。

敬文館發行圖書

東京高等師範學校教授文學士 吉田靜致先生著

倫理と人生

菊版上製美本
定價金壹圓貳拾錢
送料金拾錢

本書は過去數年間に於ける著者の講話中より特に時勢に適切なるものを選びて編輯せしものなり。就中、倫理要領、人道主義の眞義、新博愛主義の諸篇の如きは國民道德の倫理學的基礎を明かにし、著者の抱懷せる人道的國家主義の一端を披瀝せしものなり。著者の學界に於ける名聲は世人の既に知る所、本書が一般修養書として絶好たるべきは勿論文檢受檢者及小學教員諸君の必讀の参考書なるべし。

文部省通俗教育調査委員 笹川潔先生著
經賣新聞主筆 法學士

通俗眼前小景

本製頗美本
定價金七拾五錢
送料金八錢

良藥口に苦がしといふは、未だ開けぬ時代の事、今日は口に甘くして、而して、良藥たらずんば面白くない。澁面を作つて、口に道德を説くのは、昔の人の爲た事、當世は开んな譯ではからもう駄目である。眼前の小景は、讀物として極めて面白い、着眼か面白い、文章か面白い、而して面白いうちに、思想上の營養が取れる、精神上の自覺が起る、全篇四十八章、悉く是れ達人の大觀である。

敬文館發行圖書

文學博士 加藤弘之男書簡 文學士 吉田熊次先生著

我が國民道德と宗教の關係

菊版洋裝美本
定價金四十錢
送料金六錢

本書は曩に朝野の耳目を聳動したる三教者會同政策に關し、命名ある著者の旗幟を鮮明にせるもの國民道德並に一般教育の宗教に於ける關係を、根本的に闡明論及せる一大論文なり、行文流暢、理路明晰、世俗の謬見を指摘し、其の蒙を啓くこと萬々、殊に附録「我國民道德不振の理由」及び「如何せば國民道德を振起せしむべきか」等の如き、其の缺陷を根本的に究明し、更に進んで此れが振起の方向を指示して餘蘊なし、眞に江湖に推獎すべき刻下の快著なり。

青森縣師範學校附屬校主事 佐々木清之丞
静岡縣志太郡岡部小學校校長 秋鹿 見二 共輯

教授資料 大日本物産詳解

上製八百餘頁
定價金二圓三十錢
送料金十六錢

本書は本邦の物産四百餘種を農業、畜産、林産、礦産、水産、工産の六編に分類し各種毎に由來、性質、産地等を丁寧親切に説明せるものにして小學校は勿論中等程度の各種學校及地理研究上必設必讀の良著なり。

敬文館發行圖書

東京高等師範學校講師 山松鶴吉先生著

小學校に聯絡せる 家庭の教育

菊版箱入洋裝
製本頗優美
定價金壹圓
送料金八錢

△本書は教育實際の指導者として有名なる著者が今日の家庭教育上特に注意を要し實行を必要とする實際的の事項を極めて平易且つ懇切に述べられたるものである。
△本書の指導に依りて各家庭が其の子供を教育したならば能く學校の教育方針と一致して必ず著大なる成效を得るに相違ないのである。
△此の故に本書は各家庭の是非とも一本を備ふべきもので良妻、賢母、女學校の上級生、幼稚園保母、小學教師たる人々の必ず精讀を要する良書である。

東京高等師範學校訓導 相島龜三郎先生著
東京高等師範學校訓導 馬淵冷佑先生著

兒童課外讀物 少年物語語

菊版口繪木版
數個入定價
各金十二錢
送料各金四錢

尋常第三學年用第一編 尋常第四學年用第二編 尋常第五學年用第一編 尋常第六學年用第一編
○每編收むる所の材料は現今の修身、讀本、歴史、地理等の新教科書に連絡を求め最も趣味に富みたるもの十數篇を選ばれたり。
○每編の文字、語句、文章は各學年の程度を考へ平易流暢に叙述せられたれば兒童の文學的趣味を養ふと共に有益なる知識を與へ且つ讀書力を増進せしむるを得べし。

敬文館發行圖書

米國教育 學博士 西山愨治先生著

最近 思潮 實際教育之新研究

菊判上製美本
定價金八拾五錢
郵税金八錢

著者は多年海外にありし新進氣鋭の教育家なり、新進曲にありて其新教育の實施に就て文部省へ報告せしものは凡て本書に收む、これ著者歸朝第一の著述にして職業教育工場方案と小兒勞動、道德教育、宗教教育、英語教授法等に關する最近思潮を縱横に論議せしもの、切に教育家、宗教家、警世家の一讀を待つ

農學博士 橫井時敬先生序 福島縣 農學校長 片山熊太郎先生著

學校園設置及保護法

洋裝 頗美本
草花風景色畫入
定價金四拾錢
郵税金六錢

我が文部省の學校園を獎勵せられし以來、之れが設置及保護法を研鑽せんと欲する教育者多かるべし、左れば今回藝學に精通せる片山先生に請ふて、本書を發行しぬ、而して其内容に至ては材料豊富記事精確にして一々叮嚀親切にこれか解釋を試みられなり、就中、學校園保護法の如きは、世間未だ之を論じたるものなし、故に各種學校は勿論自家庭園の美を添えんと欲するものは必ず一本を備ふるの必要あり、

敬文館發行圖書

東京高等師範學校訓導 村野幸二郎先生編

尋常五年用 國語辭典

三六版洋裝
定價金三十錢
送料金六錢

小學校の兒童をして辭書の使用に慣れしむることの必要なるは今や教育社會の定論なり。而して辭書を用ひしむるは尋常五六年よりするを最も適當なりとす。本書は凡て發音によりて直に之を見出す方法を探りたれば尋常五六年用として最も適當なるものなり。

明治四十五年四月改正 文部省御許可

改正 手旗片假名信號法

定價金七錢
送料金二錢

手旗片假名信號法は、明治四十一年中、文部省の命令に依り、小學校、中等學校、實業學校其他各種の學校に於て、教授することとなりたるもの、教育上、體育上必用一日も缺くべからざるものなり。我が海軍省は此の信號法に全部の改正を加へて發表せられ、尋て遞信省に於ては、この信號を船舶の信號に採用せられ陸軍省に於ても亦此の改正法を採用せらるべしといふ是に於てか、文部省に於ても、此の信號法を各學校に於て教授せしめらるゝ事となりたるものなり、故に學校生徒は勿論何人も日常これを携帶すべきものなり。

敬文館發行圖書

堅實なる模範的補習教科書

東京高等師範學校訓導 同附屬小學校補習科擔任 高橋喜藤治先生編 (最新刊)

國民補習讀本

和裝上下全貳冊
定價各金參拾錢
郵稅各金六錢

●補習讀本の世に行はるゝもの既に多し。何故に本館が著者に請ひて、之を公になしたるか。
一、補習讀本の著者にして補習科の教授に直接關係せるもの果して幾人かある。本書は高橋先生が多年の經驗を基礎として編纂せられたるものなり。
二、補習讀本の實業讀本と混じたるは改革を要する現下の急務なり。本書は高橋先生がこの思潮の急先鋒として編纂せられたるものなり。
東京高等師範學校訓導 蘆田惠之助先生著 (最新刊)

作文補習教本

和裝全壹冊
定價金貳拾五錢
郵稅金六錢

●作文の困難は天下の聲なり。したがつて之が補習を工夫したるもの稀なり。
●作文の補習果して方法なきか、本館この興味ある問題を提供してこの著を得たり。
●著者いはく「文を學ぶに奇法なし。つとむるに如かず」と。またいはく「この書文に志すもの、誰が讀みても可なり」と。
●本館は著者の自信ある、この言以上に、紹介の言を有せず。

敬文館發行圖書

青年指導研究會編

業間青年讀本

全貳冊
定價各金參拾錢
郵稅各金六錢

業間青年讀本參考書

全一冊
定價金貳拾錢
郵稅金四錢

青年指導研究會編

補習教育農業新讀本

全貳冊
定價各金貳拾五錢
郵稅各金六錢

補習教育農業讀本參考書

全一冊
定價金拾五錢
郵稅金四錢

青森縣師範學校校長 兼 小學校主事 佐々木清之丞編

青年必讀國語漢文教本

全貳冊
定價各金貳拾八錢
郵稅各金六錢

青年必讀國語漢文教本參考書

全一冊
定價金貳拾錢
郵稅金四錢

敬文館發行圖書

文學士 丸井圭次郎先生著

日本外史 青年漢文教科書

(文部省檢定出願中)
和全壹冊
定價金三十錢
送料金六十錢

◎本書は中等諸學校及び補習學校の教科書に充てんがため頼山陽の日本外史より歴代の盛衰、治亂の大綱に關し青年の記誦に値するもの、及幾多の英俊か忠孝義烈所謂武士道の精華を發揚せる事蹟を選び、且つ之を時代順に排列せると同時に文章の難易等に極めて懇篤の注意を拂ひたり、此種の漢文中尤も出色のものたる事を疑はず。

文章軌範 青年漢文教科書

近刊印刷中

十八史略 青年漢文教科書

近刊印刷中

四書 青年漢文教科書

近刊印刷中

敬文館發行圖書

文學士 白河鯉洋先生著

諸葛孔明

洋裝總布頗美本
菊版全一冊
定價金壹圓
郵稅金八錢

古今東西の偉人中殆んど其比を見ざる迄に完全なるに近き諸葛孔明は本書によりて遺憾なく其の面目を躍如たらしむ、其文致も全く孔明の人格に一致す、規模は雄大なれども亦小節を苟くもせざること、脱俗的なれども同時に極めて通俗なること、謹嚴なれども亦折觸れて善諱するが如く、又之れを本書の文致に見る、其の心は赤誠忠純なること、之れを孔明の人格に見るが如く、又之れを本書の文致に見る、且つ後漢より三國に涉れる東洋史上の最も精華ある色彩は此の書に依りて燦然として描き出さる。

吾恥庵主人著

青年修養 我愛する偉人

天金總布頗美本
新形二百五十餘頁
正價金五拾錢
稅金六錢

著者は現に地方牧民の任に膺れるの人なるが、好んで古今東西の史籍を涉獵し、弘く偉人を物色して諸葛孔明を得、透徹の識見と熱烈なる言辭とを以て之を評論し、或は之を古今東西の偉人と比較し、縱論横議文章雄健、恰も天馬を驅けるの概あり、然も其人格を説き、熱なる忠誠を説く所、讀者をして涕涙を禁せざらしむ、此書が青年修養に甚大なる裨益を與ふるや論なく、何人も一讀せざる可らず。

敬文館發行圖書

三卷洋一先生著

吾が一生

菊版堅牢美本
定價金 壹圓
送料金 拾錢

◎吾が一生と題するも著者の一生を叙せるものにあらず、此の書の所有者が一生を叙せんとする者なり、一の自叙傳なり、紀念録なり、生を此の世に享けて一生を終るまで吾が一身に關する事は細大洩さず、記入して、記憶と紀念とに便にし、以て吾が誕生當時の狀況より、幼少時代の經過を知り、師父の筆蹟寫眞、一家の狀態結婚の回想等、吾が一生の經歷一目歴然たるべし、故に親は我が子の爲に、子は子孫の爲に、各一本を備ふるは思慮ある人の爲さるべからざる義務ならん。

寺崎廣業書
横山大觀畫
文學士 小林愛雄先生著

支那印象記

四六版裝幀優雅
定價金 七十錢
送料金 八錢

◎本書は先に支那を漫遊せる著者が新らしき眼を以て支那の自然と人とを觀たるもの、神秘の支那は、茲に赤裸々に解剖せられたりと云ふべく、最近に於ける支那の國情は、讀者の眼前に一大活動寫眞を展するが如し、加之、廣業、大觀兩伯が踏査苦心の支那風景の大作十數葉、寫眞版數十個は支那を語るに於て殘す所なし、實に是れ國民必讀の書なり。

敬文館發行圖書

文學博士三宅雪嶺先生序 文學士横山健堂先生著

新 人 國 記

定價金 貳圓廿錢
送料金 拾錢
臺榭 金三
清韓 金四 十錢

天金菊版箱入裝釘頗美本最上紙五百六十頁精巧寫眞數十個のをして案を博つて感嘆せしむる當世の異彩なり、本書收むる所に簡達の筆を以てす。妙味讀むも著者は趣味の人なり。而して人物を論し、風土を論するに簡達の筆を以てす。妙味讀むも以上各國の英雄才人、山川の景色より人情風俗の末に至る迄、長を擧げて短を捨てず、正に關中燭を點し金屏の畫を見るか如きものあらん、眞に最も精緻にして最も興味ある日本文地誌と謂ふべきなり

文學士横山健堂先生著 (黒頭巾氏)

舊 藩 と 新 人 物

定價金 貳圓五拾錢
送料金 拾六錢
臺榭 金三 十五錢
清韓 金四 十五錢

菊版箱入裝釘頗美本最上紙八百五十頁精巧寫眞版三百余個のをして案を博つて感嘆せしむる當世の異彩なり、本書收むる所に簡達の筆を以てす。妙味讀むも著者は趣味の人なり。而して人物を論し、風土を論するに簡達の筆を以てす。妙味讀むも以上各國の英雄才人、山川の景色より人情風俗の末に至る迄、長を擧げて短を捨てず、正に關中燭を點し金屏の畫を見るか如きものあらん、眞に最も精緻にして最も興味ある日本文地誌と謂ふべきなり

敬文館發行圖書

山路愛山先生著

書齋獨語

定價金六拾五錢
郵税金八錢

愛山先生の、社會萬般の事象に對して批評を下し、其の思想感情を披瀝したるもの、激厲風發の文あり、光風霽月の情調あり、近來稀に見るの快文字。

圖南生選 永治氏裝

お國自慢

四六版美本
定價金六拾錢
送料金六錢

囊に讀賣新聞社に於て募集し、其の紙上に掲載せられたるもの、今回同社の許諾を得て、更に選別の佳作三百篇を加へて一冊と爲し、第一編として寫眞版或は繪畫を挿入し以て所謂自慢語に花を咲かせんとす。地方の色彩は、思ふに本書に於て遺憾なく發揮せられん。人々の郷人は如何に其の郷里の或ものを誇りしか。決して興味なき想像にはあらざるべし。

敬文館發行圖書

大山元帥閣下題字
黒木大將閣下題字

陸軍騎兵大尉 由上治三郎君著

天覽
臺覽

鐵蹄夜話

菊版頗美本
定價九拾五錢
郵送八錢

明治武士道の精華!!

「鐵蹄夜話」は驍將由上大尉雄渾の筆になり「兵車行」は猛卒大月上等兵精緻の筆に成る、世俗徒らに小説的虚構に走るに拘らず、該書は實戰の人の率直なる回想談を骨子とし行文亦典麗高雅の快文字を以てす、何れも報國の赤誠を經とし、盡忠の熱精を緯として羅織せる明治武士道の精華なり。而してこれが出版以來、聲價頓に暴騰、重版に重版を以てするの光榮を荷へり。

日露戰記の姉妹篇!!

陸軍歩兵上等兵 大月隆伏君著

兵卒の見たる
日露戰爭 兵車行

菊版頗美本
定價金九十錢
送料金八錢

敬文館發行圖書

醫學博士 吳秀三先生題 醫學博士 三宅鑛一先生序
東京巢鴨病院主任 中村讓先生著

神經質と其療法

本製菊版頗美
定價金 一圓
送料金 十錢

著者は久しく神經病の研究に従事し親しく實地に就いて闡明し大に自得する所あり、學界の爲め又諸人救済の爲めに其所言を披瀝して本書を著はす。學理的に將た一般應用的に説明し、而も内容は證候、原因、診斷、自療法に至るまで、平易簡潔にして頗る同情に富む。常に該病に犯されあるの士は、勿論、將來を期し、自重自愛する人の一讀を要するの書なり。

敬文館發行圖書

文部大臣 長谷場純孝閣下題字 文學博士 芳賀矢一先生序 豊岡茂夫君著

大楠小楠

菊版函入 美本
定價金 六十五錢
送料金 八錢

▲著者は令名ある操觚者にして熱烈なる楠公崇拜者なり。忠孝の念より日々に遠かり行く現代青年の前途を憤慨し、楠公父子の崇高なる人格と曠古の偉業とを透して、其の鬱勃の氣を吐けるもの本書なり。行文流麗にして雄渾、理路分明にして卓拔、大和魂の具體化する建武中興の忠臣を偲ばしむるに些の遺憾なし。然して本書の稿成るや著者の英靈は溘然として幽界に去れり、嗚呼この絶筆!!嗚呼この絶筆!!!

出口兢君著 池田永治君装

全國高等學校評判記

裝幀洒瀟頗美本
定價金 六十錢
送料金 六錢

▲毒乎!!藥乎!!世に毒でもなく藥でもなき筆法の人あり、斯の如き旗幟鮮明ならざる人は、著者の最も嫌忌せる所にして、本書の内容も又此の見地より出發す、一高は東京にあるが故によく評判に上れど二高三高と全國の高等學校を併せて論じ且つ寫せしものなし、著者此に見て此の難業を完成す、加之筆路暢達、文に澁滯の氣なく、齒ぎれよき讀み物なり、敢て學生諸君に一本を勸む、毒乎!!藥乎!!

敬文館發行圖書

東京音樂學校教授
文 學 士 吉丸一昌先生作歌

幼年唱歌

第一集
△隔月發行、紙質優秀、裝釘美麗
定價金貳拾錢 送料金四錢

▲幼稚園を始めとして、家庭、小學兒童課外用として、感興の湧くに從つて、作歌せられ
たるものに、音樂の名家及び新進作曲家が、清新なる日本趣味的曲調と平明なる伴奏と
を以て作曲し、島崎教授が一々嚴密なる校閲をなしたるもの、蓋し空前の良書なり。

第一集 目次

- 一、手毬と紙鳶 (楠美恩三郎氏作曲)
- 二、めくら鬼 (大和田愛羅氏作曲)
- 三、お玉じゃくし (梁田 貞 氏作曲)
- 四、登 狩 (中田 章 氏作曲)
- 五、荷 車 (大和田愛羅氏作曲)
- 六、駈つこ (梁田 貞 氏作曲)
- 七、冬の夜のひよき (澤崎 定之氏作曲)

第二集 豫告

- 一、櫻 (南能 衛 氏作曲)
- 二、遊磨さん (本居長生氏作曲)
- 三、月の世界 (大槻貞一氏作曲)
- 四、木の葉 (梁田 貞 氏作曲)
- 五、猫と犬 (奥田甚二郎氏作曲)
- 六、風の子 (岡野貞一氏作曲)
- 七、水車と風車 (中田 章 氏作曲)
- 八、からす勘三郎 (大和田愛羅氏作曲)

263.6
23

終